

◆◆限りある資源を有効に活用します◆◆

## 資源ごみの売却量

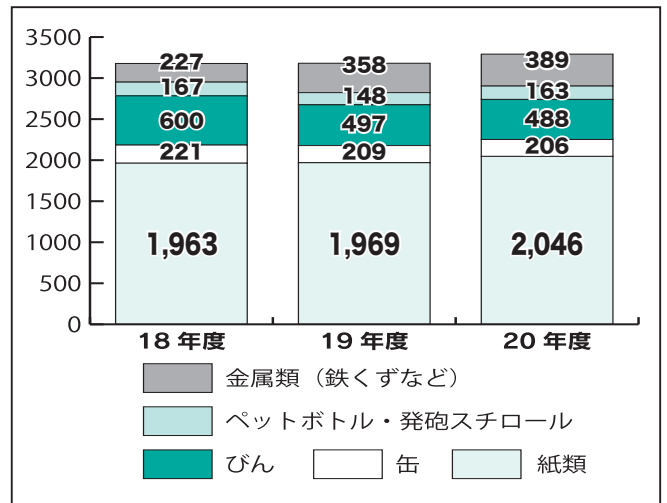
図2と表2は資源ごみの売却量と売却金額の推移を表したものです。紙類の20年度の売却量は19年度と比較して77トン（約3.9%）の増加となっています。これは、1月からの分別方法の変更により、資源ごみとして出される雑紙の量が増加したことによります。また、金属類の売却量も増加していますが、これは燃やせないごみとして出された中から資源となる金属類をできる限り分別したことが挙げられます。

それにもない、売却金額は増加していますが、これは昨年秋まで売却単価が高かったことによります。現在は、世界的不況の影響により資源ごみの売却単価も下がっていますので、21年度の売却益は落ち込むことが予想されます。



▲圧縮処理された缶。リサイクル業者に引き渡します。

【図2】 資源ごみの売却量の推移（単位：トン）



【表2】 資源ごみの売却金額（単位：万円）

	紙類	缶	びん	ペットボトル・発砲スチロール	金属類（鉄くずなど）	合計
18年度	1,595	1,455	163	795	345	4,353
19年度	2,968	1,590	101	645	890	6,194
20年度	3,872	1,591	104	577	1,100	7,244

◆◆ごみ処理経費の節減に努めます◆◆

## ごみ処理経費

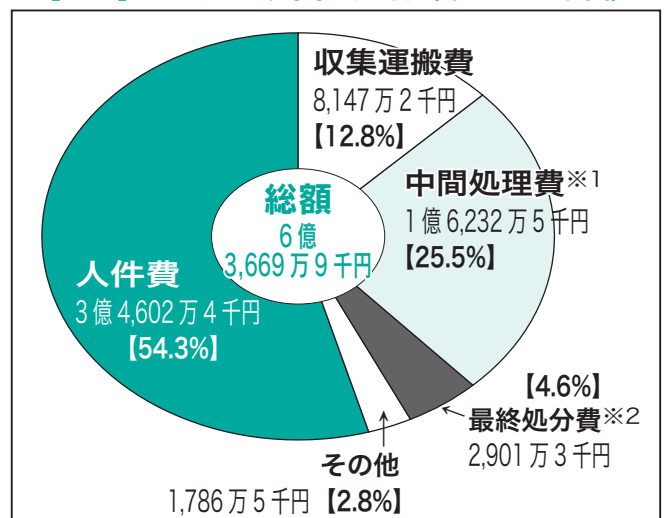
平成19年度のごみ処理経費は約6億3,669万9千円で、内訳は図3のとおりです。これは1世帯当たりで約2万3,000円、1人当たりでは約9,500円年間で掛かったこととなります。また、1トンのごみを処理するのに約2万2,700円掛かったこととなります。

収集や焼却、埋め立てなどごみを適正に処理していくためには、労力や施設の整備のほか、維持管理費が必要となります。

人口	67,039 人
世帯数	27,721 世帯
年間ごみ排出量	28,016 トン

（平成20年3月31日現在）

【図3】 ごみ処理経費の内訳（平成19年度）



※1【中間処理費】 焼却・焼却灰処理など

※2【最終処分費】 埋立・不燃ごみ処理委託など